

N. O. 英語英文学科・3 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

小さい頃から英語を学んでおり、海外の文化や生活に興味があったので、いつかは留学をしたいなと考えていました。高校生の時に初めてオーストラリアに行ってから、大学に進学したら絶対に留学をしようと考え、計画していました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

IELTS で出願資格に十分なスコアを取るために勉強をしました。当初は TOEIC のような感じだろうと思っており、あまり心配していなかったのですが、受験に申込み後、申込特典でいただいた過去問を見て、自分が予想していたよりハイレベルなことに驚き、受験申込後から受験日まで、その過去問や、図書館の教材、YouTube の動画などを利用して、短期間で IELTS の勉強を詰め込みました。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

私はオーストラリアのアクセントに触れる機会があまりなく、慣れていなかったため、SNS などでオーストラリア英語やオーストラリア人が話している動画などを見て、事前に耳を慣れさせました。また元々海外の映画やドラマを見るのが好きだったため、視聴の際、意識して台詞の単語をキャッチできるようにすることを、練習していました。

◆ ビザ申請方法

私はエクセルエデュケーションさん（留学専門代行会社）のビザ申請サポートを利用しました。まずは説明してくださる通りに準備を進めました。申請時に必要な作文などの準備は時間がかかり大変でした。いざ準備を整え、自身で申請をし、支払いが完了すると、すぐに承認メールが届きました。

◆ その他

色々な生活必需品を購入・準備をしたり、お土産を購入したりしました。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

私はゴールドコースト空港に到着して、無料のお迎えサービスを利用しました。空港からホームステイ先まで 45 分ぐらいだったと思います。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

現地に渡航する前に、気になるイベントをいくつか予約しておき、積極的に参加しました。そこで出会った学生たちは、現在でも交流が続く大切な友人となっています。イベントへ参加することは、友人を作る機会だけでなく、授業について知ること、大学の仕組みや学生生活を理解することにも役立ちました。他国から来た留学生にとっても、自分と同じように新しい環境で友人を作ろうとしている場であるため、最初は緊張するかもしれませんが、臆することなく積極的に周囲の人へ話しかけることが大切だと思います。そのような行動が、充実した留学生活につながるきっかけになると感じました。

◆ その他必要な諸手続き方法

保険は全て出発前に手続きしました。現地での支払いについて、私の場合は、デビットカード、クレジットカード、現金を使用しました。現金は 3 万円を日本で換金して持って行き、基本的にはデビットカードを使用していました。クレジットカードを使うと手数料がデビットカードよりも高いので少し損です。私は銀行口座開設をしましたが、長期で留学される方は口座開設をすることをお勧めします。理由は友人と割り勘などをした際、口座を開いているとメールアドレスで簡単に送金が可能なため、金銭のやり取りをするのにとっても便利だからです。また、毎月のホームステイ代の支払いも手数料なしで払えます。私の場合は毎回クレジットカードで支払いをしたいたため、手数料で 50 ドル程毎回払っていました。

⑤ 語学研修期間

語学研修期間はありませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

規模の大きい大学ですが、建物などはそこまで豪華だったり歴史があったりする感じではなく、シンプルです。ところどころに小さな森のような場所があり、鳥などがたくさんいます。授業期間が始まると、友人を作るのはなかなか難しいと思いますが、オーストラリア人の友人は授業を通して出会いました。Trimester3 の期間は現地の学生はあまり授業を取らないようで、ほとんどが留学生でした。Trimester1 の期間は Trimester3 の期間に比べて学生数が多く、活気にあふれていました。図書館の席が取れないぐらい人がいっぱいでした。オーストラリア人の友人から聞いた話によると、ネイサンキャンパスの方が学生たちの授業参加率が高く、もっと活気があると聞きました。ですがゴールドコーストキャンパスはみんなカジュアルでゆったりした雰囲気でも良かったと思います。授業が終わってビーチに行って日焼けなどしている学生も多かったです。

◆ 履修科目について

Trimester 3

・ 5901LHS Language and Communication for Business and Commerce

第二言語が英語の学生に向けた授業です。大学の課題の構成や、レポートの書き方、参考文献の読み方など様々な授業で役立つことを学びました。授業内容や課題はあまり難しくなく、授業も楽しい雰囲気なので個人的に息抜きになるコースでした。評価方法は出席率、クラスへの参加・成長、グループプレゼンテーション、エッセイでした。いろいろな国から来た学生と出会えて学べる場なので、文化の違いを大きく感じるとともに文化適応力を育てるのにもいい環境でした。

・ 1006GBS Why Money Matters

このコースはコース名に比べて本当に難しいコースでした。会計、財務、経済学の基礎知識、お金の流れや金融と社会・組織・企業の間接関係を学びました。課題はブリスベン不動産市場の概要と 5%頭金制度がもたらす影響の分析を 1500 字ほどで書くレポートと、過去 5 年間におけるアメリカの所得格差、GDP 成長率、およびインフレ率の動向、また関税政策を導入した場合のそれらへの影響を分析するビデオプレゼンテーションでした。

・ 1037ENV Understanding Australian Cities

オーストラリアの都市がどのように形成・発展してきたか、人口、インフラ、行政、文化が都市に与える影響などを学ぶ授業です。課題は授業で選んだ動画の要約と学んだことを伝える 90 秒プレゼンテーション、自分の住んでる地域についてのレポート、学期末のオンラインテストでした。履修した授業の中で、一番現地の学生が多く、自由に発言が飛び交っていて、学ぶことがたくさんあり、活気に溢れたクラスでした。オーストラリアについて深く学ぶいい機会になりました。

・ 1004GBS The Purpose of Business

倫理的で責任あるビジネスのあり方、持続可能性、リーダーシップ、SDGs と企業活動の関係を学びました。課題は選んだビジネスについての分析レポート 2 つとそのビジネスと SDGs との関係についてのビデオプレゼンテーションでした。自身が思っていたよりもビジネス寄りではなく、企業や会社があるべき姿や環境・社会についてたくさんことを学びました。いつか自分でビジネスを始めたい人に向いているコースでした。

Trimester 1

・ 1721LHS Writing and Reading in a Changing World

小説や詩などの文学作品を読み、分析すること、文学と社会・文化の関係を学びました。評価方法は授業への参加率、ペアと会話をする形で課題読書の分析プレゼンテーション、授業で扱う創作的または批評的なプロンプトに基づいて 2,000 語で書くレポート課題でした。他の学生たちの分析力や表現力にとっても圧倒され学びが多い授業でした。毎週 4~5 作品ほ

どの課題読書があり、大変でしたが、新しい作品、ジャンルを読むいい機会でした。

・ **1011PSY Psychology and Counselling in Professional Contexts**

心理学・カウンセリングの基礎知識を学び、それがどのような職業で役立つか、自分のキャリアを形成する上でのアプローチの仕方、考え方などを学ぶコースです。課題は確立したキャリアを持つプロにインタビューをし、振り返りレポートを書き、個人ポートフォリオおよび考察レポート、学期末テストでした。毎週の授業で自己理解を深めるアクティビティやアンケートをしたり、Linked In のプロフィールを作ったりしてとても就職に役立つコースです。

・ **2029MKT Advertising and Integrated Marketing Communication**

広告とプロモーションを活用して、顧客に商品やサービスを効果的に伝える方法を学びました。評価方法は広告・クリエイティブ戦略キャンペーンレポート、中間オンラインテスト、グループプレゼンテーションでした。2 年生のコースのため難しく、マーケティングについて基礎知識がない状態だったので、でついて行くのが大変でした。グループプロジェクトではみんなでキャンペーンを考え、形にして行くのが面白かったです。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

特にクラブには参加しませんでした。Griffith の Student Guild という団体が企画するイベントに参加したり、Griffith Mate という団体のイベントに参加したりしました。また、キャンパスの近くにあるゴールドコーストの学生が無料で利用できる Student Hub で Pizza&Games や Yoga&Chai などのイベントに参加していました。大体のイベントは無料で参加でき、大きなパーティーなどは有料でしたが、友人たちだけに限らず、新たな学生とも出会え、楽しめる場なので参加して良かったと思います。

⑧ **現地での住まいについて**

◆ **正規科目履修期間**

私はホームステイで滞在していました。キャンパスからバスと徒歩で 20 分ほどにあるゲートつき住宅街のお家で共用のプールやジムがありました。ニュージーランド人のホストマザーと私、ハウスメイトひとりの合計 3 人で暮らしていました。うち、ハウスメイトのひとりについては、私が滞在している間で韓国人 2 人、日本人 2 人の合計 4 人の入れ替わりがありました。個人部屋があり、トイレ・バスルームについてはハウスメイトとシェアをしていました。食事プランは、平日は朝夜付き、土日は朝昼夜付きでした。朝と昼は買ってきてもらった食材で自炊し、夜は作ってもらっていました。

⑨ **長期休暇の過ごし方**

クリスマスホリデーの時は、ホストマザーのお姉さん夫妻のマンションで過ごしました。お姉さん夫妻の犬と散歩に行ったりプールで泳いだり海に行ったりしました。Trimester 間の休みは友人たちとゴールドコースト、ブリスベンの色々なところに遊びに行きました。イースターホリデーでは、自身の母がシドニーに遊びにきてくれたので、2 人でシドニー旅行へ行きました。また、授業期間中でしたが休日にホストマザーとサンシャインコーストに遊びに行ったのもいい思い出です。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

正直、就活はしていません（留学期間は 2 年次秋学期～3 年次春学期）。Griffith University の授業や課題、限られた留学期間の中で何をしようかを考えるのに手一杯で、あまり就職活動のことを考えていなかったです。しかし、今回の留学を機に、自分の人生で何をしたいのかを考えたり、どんな選択肢があるのかを探してみたりしていました。また、1011PSY の授業を通して、自分のキャリアについて考える機会がたくさんあったので、その際に日本へ帰国した後の就職活動で何をするかを考え、計画を立てていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

友人たちと色々なところに遊びに行ったり、一緒に料理をしたりなど本当に些細なことでもとても楽しかったです。私も友人たちも初めて親元を離れて違う国で生活を始めて新しい環境で大学生活を過ごしていたので、新しいこと、難しいこと、わからないことがたくさんでしたが、わからないと言いながら一緒にやってみるのも面白く、記憶に残っています。また、課題の締め切りの前にはみんなで図書館に集まって課題をしながら、美味しいものを食べて頑張ったことも記憶に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

最も苦勞したことは、毎回の課題でした。1000～2000 字のレポートやプレゼンテーションを 3 つ 4 つの履修しているコースごとに課題の提出をしないといけなかったもので、いつも期限ギリギリまで友人と図書館で課題をしていました。あとはオーストラリアの気候や環境の違いから幼少期に少し罹患していたアトピーが再発し、精神的にもとてもつらかったです。この部分に関しては何度も日本に帰りたいと思うほどでした。一方で、生活習慣の違いについては、最初こそ大変さを感じましたが、時間が経つにつれ、だんだん慣れてくるので、大きな問題もなく生活できるようになりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

高校生の時にシドニーでホームステイをした時から今に至るまで衝撃だったのは、シャワールのタオルを 1 週間変えないことです。結構海外では普通のことみたいですが、慣れるまでは大変でした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は大学へは色々な国から学生が集まっているので、たくさんの学生たちと出会えたこと、そして留学生向けのサポートもしっかりしていたため、安心して授業を受けられたことです。その分、日本人の学生も多かったですが、お互いに英語で話すことを心がけていたので特に支障はありませんでした。トラム、バスにすぐに乗れ、交通の便がよく、授業終わりにお買い物に行ったり、海に行ったりしていました。またキャンパスの周りにもスーパー、薬局、有名なベーグルカフェなどがあり、商業施設も充実しています。あえて悪かった点を挙げるとしたら、キャンパスがあまりオシャレではないことぐらいだと思います。シドニーやメルボルンなどの都市に比べると比較的新しい都市と言うこともあり、私が憧れていたような歴史深い建物などはなかったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

留学生活において、パソコンは必需品です。課題をするのにも、授業の予習、オンラインクラス受講時にも必要です。また、オーストラリアでは多くの商品が日本よりも高く、値段は 2 倍で販売されていることも多くありました。そのため、日用品（消耗品）はスーツケースに入れられるだけ、持参したほうがいいなと個人的には感じました。例えば、スキンケアや生理用品、ウェットティッシュなど自分の肌に合うものを持って行って良かったなと思いました。現地で購入したものの、自分の思っていたものと違うとなると、結局別の商品を買わなければならない場合もあり、思わぬ出費につながると感じたからです。また、薬などもいろいろな種類を持って行きましたが、結局のところ役立ったのは、皮膚科で処方された薬（肌が弱い方はおすすめで、日本の病院で渡航前に英文の診断書を有料で作成してもらい持参しました）、熱さまシート、解熱鎮痛剤、キューピーコーワゴールドなどのビタミン剤です。また私は肩こりがとてもひどいので、湿布をたくさん持って行きましたが、こちらにも救われました。最後に少し現実的な話になりますが、留学生活では資金の準備や現地でのやりくりも重要だと感じました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

オーストラリアに渡航してすぐに簡単な単語を使っているのに聞き取ってもらえないことがあり、R と L の発音を夕食時にホストマザーと練習するということから始まりました。

細かい発音を気にしながら話すこと、実際に使われている表現を使ってみること、早いスピードで話すオーストラリア人の英語を聞き取ること、オージー英語のみならず色々な国から来ている人たちの英語をうまく聞き取ることなど、毎日がたくさんの挑戦、学びにあふれていました。実際に自分の英語力が格段に上達したと感じたのは、夕食時に自分が伝えたい話をうまく伝えられた時、クラスで今まで聞き取れなかった学生の発言を理解できた時、自分のジョークに友人たちが大笑いしていた時、オーストラリア国内線飛行機のアナウンスを聞き取れるようになった時などです。またオーストラリア人がよく使うフレーズやスラングを使うとみんな笑って褒めてくれるので、自身に自信が欲しい時は、他にはどんな表現があるかを教えてもらって、次の機会に使えるようにしていました。留学を通して、英語で物事を考える場面が多くなり、オーストラリアにいたときに初めて英語で夢を見たのを印象的に覚えています。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

もちろん金銭面の不安や大変なことも多いですが、それ以上のかげがえのない経験を得られるいい機会です。何よりも協定大学留学をしていなかったら出会えなかったであろう、色々な国からの学生たちに出会え、友情を築けたことがとても素敵なことだと思います。またこの協定大学留学を通して私が所属する学部では学べなかったビジネスやマーケティングの授業を受けられたこと、毎回の授業が刺激的な学びで溢れていたことも良かったですし、英語を学ぶだけでなく人生を通して価値のあることをたくさん学べたと思います。何よりも人生の中のこのタイミングでこのような経験ができたことが良かったなと思いますし、自分に自信を持って帰ってこられました。もし留学をしようか悩んでいるのであれば、目標立てて、ぜひ挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

正直帰国後に就活の話を周りから聞いて、頭を抱えています。まだ自分が何をしたいかは明確にはわかっていませんが、自分が好きなこと・興味があること、得意なことを仕事にし、生きていきたいです。まだまだやりたいこと、行きたい場所、買いたいものもたくさんですが、自分で全部叶えていきたいですし、ひとつひとつ手に入れていくのが楽しみです。

V. 写真



ゴールドコーストの Burleigh Beach です。
有名な海でゴールドコーストといえば、
このビーチと言われるビーチです。海辺
に見える建物が印象的です。



Griffith Mate という団体のイベントに参加したときの写真です。このイベントでは留
学生たちが交流できる場で、たくさんのゲームや食べ物が準備されていました。

2025 年度 (秋スタート・1 年)
Griffith University



シドニーの Bondi Beach にある有名な海水プールです。



Trimester 1 のオリエンテーション week の最後にあった Beach Party の時の写真です。



Introduction to Psychology 1 の授業の写真です。私は結局履修途中でとりやめ (drop) しましたが、1 年生向けの人気な授業でした。